



Bーぐる沿線協議会ニュース

第28号

令和5年3月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係コミュニティバス担当 CB-5803-1387

沿線協議会が令和5年3月16日に開催され、協議会の会長・副会長の選任が行われたほか、令和4年度第3四半期運行実績、令和4年度Bーぐる友の会の活動に関する報告がありました。

利用者数は回復傾向。本郷・湯島ルートは今後の動向を注視

令和4年11月の委員改選後最初の開催となったため、最初に今回から参加の新たな公募委員を含む各委員と事務局の紹介があった後、元田会長、寺澤副会長が再任されました。

会議の冒頭、元田会長から「コロナ禍で思うように会議が開けなかったが、皆様方にお会いでき大変嬉しい。2年間のお付き合いとなりますが、宜しくお願い致します。」と挨拶がありました。



元田会長

続いて事務局から、沿線協議会の趣旨と運行事業の概要の説明、令和4年度第3四半期の乗車人数について報告がありました。

千駄木・駒込ルートは345,666人、目白台・小日向ルートは320,196人と新型コロナの行動制限が緩和されたこともあり、前年度から回復傾向が確認

されました。一方令和3年9月に開業した本郷・湯島ルートは112,945人と、他路線と比較して利用者の少なさが目立つ結果となりました。

また委員からは、順天堂病院バス停ではタクシー待ちでバスが横付けできていないといった利用上の問題点の指摘もありました。

本郷・湯島ルートの利用に関して事務局から、開業後数年間は状況を見守りながら周知を広め、日立自動車交通と協力の上、利用促進に努めたいと説明がありました。



新たに公募委員になった皆さん

Bーぐる乗車人数（令和4年4月～12月）

	千駄木・駒込ルート	目白台・小日向ルート	本郷・湯島ルート
乗車人数 (対前年度)	345,666 (+39,468)	320,196 (+43,947)	112,945 (+82,978)

※本郷・湯島ルートは令和3年9月30日運行開始

無理のない事業継続に向け、区と運行事業者で協議を開始

鈴木委員から、昨今の物価高や人件費の上昇等、運行上の負担も増加していると思うが、補助金の上限等もあり、運行上の支障が出ていないかと質問が出されました。

これに対し事務局から、燃料代等は実費精算、Bーぐるの赤字部分は区からの補助金で賄うことを前提

としている。他2路線に比べ収支比率が低調な本郷・湯島ルートについては、意見をいただきながら利用者アップを図っていききたいと回答がありました。

元田会長からも厳しい現状の中で、現実的な解決方法を模索していただきたいと述べました。

コミュニティバス利用者実態調査を実施

事務局より令和4年10月に実施された「文京区コミュニティバス利用実態調査」ほか調査の実施状況が報告されました。

- ①コミュニティバス利用実態調査
- ②コミュニティバス利用者意向調査
- ③コミュニティバス潜在需要調査

この調査は令和3年9月から3路線になったことに伴い、各路線の運行計画等の改善や利用促進に向けた計画策定の基礎資料とするために行いました。

この中で、②コミュニティバス利用実態調査、利用者意向調査は3ルート合計6,020票を配布し、回収

は2,106票で回収率は35%、③潜在需要調査の回収は624票で回収率は31.2%となったことが報告されました。

調査結果は、来年6月の議会報告を経て次回の沿線協議会で報告される予定です。



3年ぶりの洗車ツアー。今後もBーぐる沿線地域を盛り上げたい

最後に、Bーぐる友の会の飯森委員から令和4年度の活動報告と今年度の計画について説明がありました。



飯森委員

コロナ禍で活動が制限された中、跡見学園女子大学土居ゼミの学生と協働で車内番組の制作、沿線情報誌 people の発行、Bーぐる親子洗車ツアーの開催、文京花の五大まつり開催にあわせたエンブレムの掲出、SNSを通じた積極的な情報発信が主な活動でした。

コロナ禍により3年ぶりの開催となった親子洗車ツアーには抽選で選ばれた11組29名の子どもと保護者がBーぐるの車庫に集まり、ジェット噴射（高圧洗浄）体験や運転席での記念撮影を通じて、Bーぐるとのふれあいを楽しみました。

Bーぐる友の会では、次年度以降もこうした活動を通じてBーぐるを盛り上げていきたいと抱負を語りました。

同じく鈴木委員から、「車内番組は昨年からインターネットのデータ配信になった。広告代理店が間に入ったことで番組以外の広告も流れるようになったが、かえって、情報量が増えて他区に比べ豊富で魅力ある情報発信が出来ているのでは」という意見も出ました。

公募委員で以前から people を愛読していたという石川委員からは、「移動のためのバス」だけでなく、「Bーぐるに乗るためのバス」としていければと感想を述べました。



令和4年9月開催の洗車ツアーの様子

編集後記

地域に根差した公共交通は私たちの生活に欠かすことのできない「日常の足」です。Bーぐるが最初の運行を開始してから15年近くが経過し、今ではBーぐるは走っているのが当たり前に見えるような存在になっています。これまで運行を支えて下さった日立自動車交通さんに感謝しつつ、改めて協議が良い方向に進むことを願っています。(N)